

平成30年度 学校教育計画

7.3 長野県塩尻志学館高等学校

| | | |
|----------|--|---|
| 教育理念 | ー 真理の探究 ー 自他の敬愛 ー 責任の完遂 | |
| 学校教育目標 | 1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開講して生徒の個性を伸長させる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。 | |
| 中期目標 | (1) ライフプランを確立させ、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 十分に体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養い、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究 | 校内評価 ・全体的には目標を達成できたと思われる。生徒の進路実現に向けた学習環境の整備やキャリア学習の充実が図られた。また、新たな受検体制への対応や「探究的な学び」への移行など次なる教育課題に向け動き出すことができた。今後も生徒の自己実現ができるような学校運営を心がけたい。 ・地域や中学校との連携が更に深められ、本校の魅力アピールすることができた。校内では、生徒会活動や部活動などで個性を発揮できる場も用意され生徒が生き生きと活躍できる場面が増えた。 |
| 今年度の重点目標 | ① 生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実、学力向上の取り組み ② 生徒一人ひとりの主体的な学びを支援し、自己実現のできる学校づくり ③ 地域社会との連携、情報発信を通した開かれた学校づくり ④ いじめや体罰のない、安心安全な環境の確保 | 学校評議員評価(コメント) ・全体的には目標を達成できたと思われ、生徒一人一人の個性を伸ばす姿勢がとられており、進路実現に向けた学習環境の整備やキャリア学習の充実が図られた。また、新たな受検体制への対応や「探究的な学び」への移行など次なる教育課題に向け動き出すことができた。今後も生徒の自己実現ができるような学校運営を心がけたい。 ・地域や中学校との連携が更に深められ、本校の魅力アピールすることができた。校内では、生徒会活動や部活動などで個性を発揮できる場も用意され生徒が生き生きと活躍できる場面が増えた。 ・生活面では、面談やアンケートの活用により生徒の状況をより詳しく把握し、いじめ等を未然に防ぐことができた。保護者や専門機関との連携も密になり生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう支援することができた。 |

| 部署別重点目標 | | | 校内評価 | | | 学校評議員評価 | | |
|---------|---|----------------|---|---------------------------|---|---|---|--|
| 部署 | 今年度重点活動(評価項目) | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | A…達成した B…ほぼ達成した C…不十分であった | 成果と課題 | 改善策 | コメント | |
| 教務 | 1 生徒が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。 2 本校の教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。 | ①②④ ②③ | ア 月暦・日課等の周知徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート ウ 各種研修の推進、サポート エ 公開授業および体験授業の充実 オ 中学校訪問および中学生への広報活動の充実 カ Webサイトの活用、ブログの発信 キ 本校の特色や入学者選抜について中学生に周知していく。 | A A | ・行事の見直しを行い、円滑な学校運営ができた。 ・授業公開、各種研修のサポートを行うことができた。 ・考査の時間割、監督評配の改善が必要。 ・平日の学校説明会に多くの中学生が参加した。 ・中学校訪問や広報誌の発行により本校の特色を広げられた。 | ・業務の見直しを行い効率よく運営を行いたい。 ・複数の職員で点検確認を行いミスのないように努めたい。 ・引き続き公開授業等の充実を図りたい。 ・新しい取り組みについては一定の流れができたので、反省を活かして次年度につなげていきたい。 ・「学びの基礎診断」を利用した学習意欲の喚起についても検討したい。 | ・保護者、地域、中学生への情報発信が良くてきていると思います。 ・今まで以上に本校の良さを地域へ発信していただきたい。 ・学校説明会や体験授業などを通して中学生が志学館高校の様子が授業内容を知り、進路選択を行うことができ、とても良かった。 ・教員の授業公開、研修会が積極的に進められており、教員の資質向上に努力がなされている。また、学校説明会の参加者が増えており、中学校との関係が良好に保たれている。 ・今後も魅力ある志学館について積極的にPRし、盛り上げていってもらいたい。 | |
| 進路指導 | 1 職員間で情報を共有し、各部署と連携しながら体系的・組織的に指導できる体制を整える。 2 進路実現に向けて自ら積極的に行動できる生徒の育成を図る。様々な資格試験の受験を奨励する。 | ①② ①② | ア 進路意識の向上、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを考える。 イ GTECに向けての取り組みせ方・指導体制を研究する。 ウ センター対策学習の改善を図る。 エ 職員向けの研修会を実施する。 オ 補習授業(結核塾含む)、模試、各種検定に積極的に取り組む キ 進路通信、志学の時間を通して進路意識の啓発に努める。 | A A | ・CPでの進路学習、GTECなど新しい取り組みを実施した。 ・センター対策学習については検討の結果、昨年同様実施。 ・小論文指導についての職員研修を実施した。 ・補習、各種検定にチャレンジする生徒が増えた。特に英検の受験者が増えた。 ・3年生に加え1,2年生の自習室利用者が増えた。 ・進路通信、志学の時間(進路)で意識の向上に努めた。 | ・新しい取り組みについては一定の流れができたので、反省を活かして次年度につなげていきたい。 ・職員も研修を受け、生徒に指導することは非常に効果的であり、これにより生徒の進路に対する意識の向上と学習意欲につながることができたと思える。 ・中高の進路指導の連携を図るうえで、高校生に中学に来て話をしてもらうことは以前からお願ひすることも多かったが、志学館を卒業して、職について活躍している20代～30代前半の若い方を紹介いただき中学で職業講話をしていただくのもよい。 ・各種検定にチャレンジする生徒が増加しており、指導の成果が上がっている。CP進路学習、GTECなどの新しい取組に意欲的であり、職員間の情報共有、体系的・組織的な指導が目指されている。なお、これらの取り組みの意義を理解しない生徒も少なくないので、大学後、重要であることや就職して社会人基礎力の基本として意義啓発が必要である。 ・補習、自習室利用など積極的に取り組む生徒が多くあると感じる。 | | |
| 生徒支援 | 1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②服装・頭髪等の身だしなみを整える ③貴重品の管理、携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止 2 いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える | ②③④ ②③④ | ア 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声がけを大事にする。 イ 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 ウ HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。 エ 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 オ 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。 | B A | ・生徒動向を職員間で共有し、生徒支援に努めることができた。 ・校内巡回を実施した。教室での監視被害は減少したが、部室や更衣室での被害があった。 ・面談やアンケート等の活用により、いじめの未然防止に努めることができた。 ・専門機関とも連携し対応することができた。 | ・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、多くの目で見守る生徒支援に努める。 ・校内巡回を実施した。教室での監視被害は減少したが、部室や更衣室での被害があった。 ・各種講演会の充実や、機会を捉えた注意喚起を行い、規範意識や自己管理能力を育てる。 ・面談やアンケートは継続して行なう。 ・支援が必要な生徒には、相談室を窓口にも各部署・専門機関と連携をとり対応する。 | ・面談および各種アンケートの継続をお願いします。先生同士、家庭との情報交換を密にお願ひします。 ・置く先の杖として指導されていることが伺える。継続して指導された。 ・地震、台風、大雪など災害時の危機管理体制を生徒の安全第一で構築して頂きたい。 ・市内や松塩館の中高の生徒指導の連絡会等で中高の情報交換を今後も行っていきたい。 ・生徒の基本的な生活習慣の確立に関する指導、いじめ未然防止、生徒支援の体制等は整っていると思われる。さらに、生徒の実態に応じた指導と支援を継続する必要がある。 ・盗難についてはどんな学校でも残念ながら多少はあるものと認識している。但し、自己防衛を徹底することである程度未然に防げると思うので自己管理の意識付け、啓発を今後も支援していただけたらと思う。 | |

| 部署別重点目標 今年度重点活動(評価項目) | | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | 校内評価 | | | 学校評議員評価 コメント |
|--------------------------|-------------------------------------|------|--|---------------------------|---|--|--|
| | | | | A…達成した B…ほぼ達成した C…不十分であった | | | |
| | | | | 評価 | 成果と課題 | 改善策 | |
| キャリア教育推進 | 1 社会の変化に対応したキャリア教育を行う。 | ①②③ | ア. 高大接続改革に対応したキャリア学習計画を立て、実行できたか。 イ. ポートフォリオを効果的に活用し、キャリア教育を行うことができたか。 | A | ・年間通して全学年で進路ポートフォリオをどのよう に活用していくのか、周 間の情報を集め検討した い。 ・生徒の学習、クラブ、生活 などについてまとめること ができた。 | ・今後ポートフォリオをどの ように活用していくのか、周 間の情報を集め検討したい。 ・地域に密着した取り組みを継続し、積極的に実施していただ きたい。 ・二年目の「シオジリ学」は地元の企業を知り、さらに働くこ との意義を考える良い機会になっていたと思う。担当者から仕 事の厳しさを社会人としてのプロ意識を感じ取ってもらいたい ので、今後大いに期待しています。 ・素年度より塩尻市内小・中学校でキャリア・パスポートへの 取組を全校で始める。高校との連携を図っていくとよい。 ・市内小中学校で夏休み中に公民館等で勉強会を開き地域の大人、大学生、高校生を講師として招く活動も始まってきたので、ぜひ参加や協力をご検討いただきたい。 | ・総合学科校としてのキャリア学習推進を評価し、特に地域との連携事業は今後も続けて欲しいと思います。 ・地域に密着した取り組みを継続し、積極的に実施していただきたい。 ・二年目の「シオジリ学」は地元の企業を知り、さらに働くこと の意義を考える良い機会になっていたと思う。担当者から仕 事の厳しさを社会人としてのプロ意識を感じ取ってもらいたい ので、今後大いに期待しています。 ・素年度より塩尻市内小・中学校でキャリア・パスポートへの 取組を全校で始める。高校との連携を図っていくとよい。 ・市内小中学校で夏休み中に公民館等で勉強会を開き地域の大人、大学生、高校生を講師として招く活動も始まってきたので、ぜひ参加や協力をご検討いただきたい。 |
| | 2 3年間を見据えた探究的な学びを計画立案する。 | ①②③ | ウ. 生徒の進路希望に合わせた科目選択の体制を整備することができたか。 エ. 職員間で生徒の情報を共有し、適切な助言を与えることができたか オ. 「シオジリ学」(信州学)に全学年で取り組むことができたか。 | A | ・科目選択、総合研究の テーマ決めにおいてサポ ーターシステムを活用し、 情報共有と適切なアド バイスを与えることが できた。全学年で「シオジ リ学」として地域と連携した 学習が行えた。 | ・「シオジリ学」を本校の キャリア学習の柱とした。 今年度の活動をベースにし て、3年間の体系的な「探究 的な学び」となるよう、各学 年で指導内容と指導手法に ついて研究を進め、準備を進 めたい。 | ・「シオジリ学」を本校の キャリア学習の柱とした。 今年度の活動をベースにし て、3年間の体系的な「探究 的な学び」となるよう、各学 年で指導内容と指導手法に ついて研究を進め、準備を進 めたい。 |
| | 3 地域との連携事業を通して総合学科高校としての将来構想を考える。 | ①②③ | カ. 積極的に地域との関わりを持ち、連携して事業を行うことができたか。 キ. 総合学科高校としての魅力を地域に発信することができたか。 | A | ・「1年「事業所訪問」、2年「職業体験」、3年「シリゼ ン」において地域と連携 したキャリア学習を実施 することができた。 | ・地域からの好意的な感想を 踏まえ、一層関わりを深めら れるように学習計画を改善し たい。特に3年生のシリゼン では「地域活性」をテーマに したい。 | ・地域からの好意的な感想を 踏まえ、一層関わりを深めら れるように学習計画を改善し たい。特に3年生のシリゼン では「地域活性」をテーマに したい。 |
| 生徒会 | 1 生徒会活動に参加することで、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。 | ①②④ | ア. 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを深めコミュニケーション能力の向上を図る。 イ. 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。 | A | 部活動や生徒会各種行事を 通し、生徒間の関わりが増 えたことで、個性を理解し 人間関係を良好に保つ方法 を考えることができたと思 われる。 クラブ活動継続審議が2年目 を迎え、壮行会を例年より も多く実施する事で、各種 団体の活動成果を知る機会 が増えた。生徒自身が、他 のクラブの状況を知る機会 が増えたことで、自身のク ラブにおいても活動のあり 方を考え行動できるよ うになってきたと思われる。そ うした事から、充実した活 動ができたのではないかと 考える。 | 生徒会活動が、人間性を高め る上で重要な活動であるこ とを全職員が意識し、連帯間 を持って部活動や生徒会行事 に携わり、より到達目標を高 める。 各クラブの活動状況や大会結 果を簡単に把握できるシス テムを構築し、それによっ て、各クラブのPR活動を促進さ せる。 | 生徒会活動が、人間性を高め る上で重要な活動であるこ とを全職員が意識し、連帯間 を持って部活動や生徒会行事 に携わり、より到達目標を高 める。 各クラブの活動状況や大会結 果を簡単に把握できるシス テムを構築し、それによっ て、各クラブのPR活動を促進さ せる。 |
| | 2 生徒自らが自覚と責任を持って活動することにより、主体性を高くむ。 | ①②④ | ウ. 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。 エ. 生徒会活動を通し、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。 | A | 生徒自身が行なう、全生徒 のための企画運営を目標に し、それを忘れないよう各 種企画立案運営をさせた。 その結果、生徒自身の視野 が広がり様々な観点から物 事をとらえることができる ようになったと思われる。 又、こうしたことを評価さ れた生徒達は自信を持つこ とができ、その結果生徒会 以外の活動へも積極的に関 わる人材となった。 文化祭では、3年の役員は 一人一役として企画運営を 行なった。その中で、横の 繋がり的重要性を理解で き、協力してつくられる作 品の素晴らしさを知る事が できた。しかし、各種委員 会活動では、委員生徒を動 かすことが難しい部署もあ り、全生徒による生徒会運 営にはいたらなかった。 | 部に意見交換を促し、集約 を生徒自身に導きださせる 共に、全体の意識統一をはか る。 職員が生徒に人を動かす方法 をアドバイスする。委員全員 で実行できる企画運営を検討 する。そうすることで、より 学校全体で協力する関係をつ くり出すことができる。 | 生徒同士が各種活動を通じて互いに協力する良好な人間関係を 保ち、リーダーとしての資質向上について学んで頂ければと思 います。 ・生徒会活動やクラブ活動等に積極的に参加している生徒の姿 がうかがえ、併せて生徒一人一人が互いに評価し自己を見つ め、成長していく姿がうかがえる。 ・卒業式の生徒会長の答辞のことばからリーダーとして悩み、 生徒会活動を一つ一つ見詰り直す事で得た自信のようなものを感 じました。後の姿勢が今年度の生徒会活動の象徴だったと思 います。 ・地域の行事等にも積極的に参加いただき、地域の大人や小 中学生とも積極的に関わり、コミュニケーションを図っていただ くことよと思 う。 ・生徒の自主的・主体的な活動による生徒会活動、クラブ活 動、委員会活動等が行われている。塩尻志学館高校に入り、生 徒が育っている面がかなりあると思われる。中学校の先生方は 高校へ行った生徒がどのように伸びるか、どのように伸ばして くれるか関心を持っている。人間関係、リーダーシップ、学 業、運動・文化面などについて、高校での生徒の成長は、中学 校側に広くPRすると良いだろう。また、「人を動かす方法」 を身につけることは、大学進学や就職以降にも役立つ内容であ り、今後も力を入れて頂きたい。 ・卒業式の答辞で「自分らしく」という言葉が印象に残っ ている。精神的に成長段階にある生徒を支え、指導していた だけに感謝します。 |

| 部署別重点目標 | | | 校内評価 | | | 学校評議員評価 | |
|---------|--------------------------|------|---|---------------------------|--|--|--|
| 部署 | 今年度重点活動(評価項目) | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | A…達成した B…ほぼ達成した C…不十分であった | 評価 | 結果と課題 改善策 | コメント |
| 図書・視聴覚 | 1 図書館運営の充実を図る。 | ①②④ | ア. 図書館利用の活性化が図れたか。 イ. 生徒による利用の向上、授業での図書館利用の拡充。 ウ. 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 エ. 生徒の探求活動に沿った蔵書の拡充を図る。 | A | 図書館を訪れる生徒が増え、蔵書検索・貸出が増えた。ネットワークを利用し、ピブリオバトルを他校と行い、交流を図り、活動の場を広げることができた。 | 総研での利用拡大のため、2学年より、テーマ設定を早めたのにもない、参考文献を2年の後期から始める。さらに1年より、総研に合わせた図書館利用のあり方を考える。 | ・図書館・視聴覚教室は豊かな心、個性を伸ばす場だと思います。利用拡大をして頂ければと思います。 ・魅力ある図書やDVD等の購入により生徒を引き付ける図書館としていただきたい。芸術鑑賞も生徒が興味を持つ内容で継続していただきたい。 ・えんばーくとの距離も近いので、市立図書館と連携し、総研のテーマに向けたカンファレンス等利用して頂きたい。 |
| | 2 視聴覚教育の充実を図る。 | ①②④ | オ 視聴覚教室の教育活動への利用拡大を図る。 ウ. 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 キ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。 | A | 芸術鑑賞では、演劇を通して、主人公の生きがいや運命について深く考察することができた。視聴覚教材としてブルーレイプレイヤーを購入し、電子黒板の利用拡大を図ることができた。 | 電子黒板における、視聴覚教材の利用拡大を図る。パソコンだけでなく、DVD等の活用を広げる。 | ・市内中学校で電子黒板や電子教科書の利用が始まっているので、小中高の視聴覚教材等の連携も図っていきう。 ・近年、若者の読書離れが進む中で、図書館利用生徒が増えたことは成果である。他校とのピブリオバトルも、生徒の意欲や交流を深めるうえで効果的と思われる。芸術鑑賞、視聴覚教材の充実などにも配慮されている。 ・生徒の探究活動に沿った蔵書の拡充は大切なことで、広い視点で積極的に進めていただきたい。 |
| 保健厚生 | 1 校舎内外の美化・清掃の強化 | ② | ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化 | B | 職員を輪番でつけ、生徒3人と一緒に毎日ゴミステーションに立つことができた。減量に向けて、H R 教室に不要のプリント類を入れる箱を設置して、定期的な古紙として縛って出すようにしていきたい。 | 外掃除(枯れ葉の時期)については、清掃美化委員会を機能させて対応していきたい。 | ・校舎内外の美化に皆で協力し、引き続き努めて頂ければと思います。さらに充実し継続されたい。 ・社会に多様な情報が流れる中で、性教育・薬物教育は重要である。また、ゴミの分別・減量化などは社会人としても大切な常識になっているので、今後も高校生の間にしっかりと考えを身につけるよう指導を続けていくことが望まれる。 |
| | 2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実 | ①②③④ | イ. 保健委員会と職員の協力体制を確立する。 ウ. 外部講師の精選と教育方法の研究をする。 | A | スムーズな運営にご協力いただきありがとうございました。 | 講演会はおおむね良好であった。 | 来年度も同様に計画したい。 |
| | 3 職員厚生の充実 | ②④ | エ. ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進 | A | 参加者は例年並みであった。怪我もなく無事終わることができた。 | | 継続して実施していきたい。 |
| 渉外 | 1 学年・学級PTAの充実 | ②③ | ア 総会・学年・学級PTAを開催する イ 授業参観や講演会の企画を行う | B | ・年間計画通りに企画運営することができた。学年ごとの会場への移動に時間がかかった。 | ・日程、会場については教務、学年、学級と検討したい。 | ・PTA活動が充実している事はとても評価できます。 ・保護者との連携ができていますものと解釈いたします。なお、110周年記念行事に向け奮闘願います。 ・保護者の中にはPTAの役員ではなくても学校行事に積極的に協力したいと考えている方もいるので、声かけも大事だと思います。 |
| | 2 PTA活動参加拡大に向けた広報活動の充実 | ②③ | ウ PTA研修旅行に向けた広報活動に勤める エ 寄植え研修会を開催する | A | ・寄植植え、研修旅行共に多くの参加者があり、盛況だった。 | ・文化祭展示、PTA会報などの広報の充実を図る。 | ・PTA活動、保護者連携、同意会活動等や、地域との連携・協力を推進する基盤として、今後も堅実な活動を継続していくことが期待される。 ・PTAでの活動については多くの保護者、教職員が得られ、とても感謝しています。 ・PTAとしては生徒の大会出場について今後ももっと支援していただきたいと感じています。 |
| | 3 保護者との連携強化 | ②③ | オ 大会出場生徒(北信越大会以上)への活動助成 カ 強歩大会への援助トナ汁提供 | A | ・トナ汁は汗ばつた分まで提供できたが、後になると十分行き渡らない場面があった。 | ・距離が短くなった分、早急の準備と参加人数の把握に努める。 | |
| | 4 同意会活動への協力 | ②③ | キ 110周年記念事業へ向けて協力体制を整える | B | 予定通り進めることができた。 | 具体的な動きが出たときに対応できるように準備していきたい。 | |

| 部署別重点目標 | | | 校内評価 | | | 学校評議員評価 | |
|---------|-------------------------|------|--|---------------------------|---|---|--|
| 部署 | 今年度重点活動(評価項目) | 重点目標 | 到達目標(評価の観点) | A…達成した B…ほぼ達成した C…不十分であった | | | |
| | | | | 評価 | 成果と課題 | 改善策 | コメント |
| 1 学年 | 1 基本的な生活習慣の確立 | ①② | ア 家庭と連絡が密にとれたか。 イ 安定した生活のリズムをつくらせることができたか。 | A | 総じて家庭との連携は密に取れていた。欠席・遅刻の連絡もしっかりとあり、生徒の状況の把握は確実にできた。遅刻の常習は少なく、安定した生活のリズムをつくらせることができた。 | 健康上、不安な生徒や提出物の出せない生徒などに、さらに働きかけを強めていくことを学年全体で取り組みたい。 | ・生徒および保護者からの学校評価はどの項目をとっても高評価となっており、学校として先生方から教育方法として良い結果が出ており、大変すばらしい事と思います。 ・選択科目が取れない・盗難といった気になる事もありますが、先生同士で情報共有頂き、良い方向へ変えて頂ければと思います。 ・成長していく生徒一人一人に対して、家庭との連携や生活態度、進路指導、社会人になる為の覚悟等、多岐にわたり指導されていることが理解できます。今後も継続して対応願います。 ・総合研究発表会はテーマの目的のついでどころ、深く掘り下げた内容、堂々とした発表に感心させられます。1、2年生は先輩のパフォーマンスを見ることで自分自身のスキルアップにつながっている気がします。とても良い運動(伝統)だと思います。 |
| | 2 学習習慣の確立 | ①②③ | ウ 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。 オ ポートフォリオへの理解を深めることができたか。 | B | 学習しようという姿勢は感じられたが、家庭学習が習慣化されている生徒は一部にとどまった。科目選択は真剣に取り組むようが見られた。ポートフォリオは実施に課題が残る。 | 精英に努力している生徒に対して、学力を向上させる支援をさらに考えていく。個別の進路に対しての情報提供を進路指導係を中心に学年全体で取り組む。 | ・家庭学習の習慣化に向けて小・中で行う必要があることについて情報交換の機会がもてるとよい。 ・SNSの適切な利用については小・中の段階から継続的な指導を進めていけるようにしたい。 ・学年ごとの重点目標の評価になると思うが、教科学習、進路指導、生徒指導などで3年間を通しての評価項目(学年ごとのステップを踏みながら)があってもよいと思う。 ・多様な進路希望の生徒に対して、現実社会との関連で将来の進路を考慮させ、カリキュラムの選択により進路を実現させていくのが総合学科の特徴である。塩尻志学館高校においても、各学年の教育活動を通して生徒の進路実現を支援する基本的なプロセスができていていると思われる。さらに、長期的な継続的な指導によって、実現できる進路分野があり、適性を認められた生徒をそうした分野に向かわせることも考慮して頂きたい。該当する生徒は一人二人または数人の程度と思われるが重要なことであろう。 |
| | 3 相互理解を深める | ②③④ | カ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスができたか。 | A | 大まかドワン利用や対面講演会を通じて、人権問題を学び互いに尊重する姿勢を学ぶことができた。 | SNSの適切な利用をさらに働きかけて、SNSによる人権被害について考えさせる。修学旅行先の広島・神戸の学習を通じて人権意識を高めていく。 | ・SNSの適切な利用については小・中の段階から継続的な指導を進めていけるようにしたい。 ・学年ごとの重点目標の評価になると思うが、教科学習、進路指導、生徒指導などで3年間を通しての評価項目(学年ごとのステップを踏みながら)があってもよいと思う。 ・多様な進路希望の生徒に対して、現実社会との関連で将来の進路を考慮させ、カリキュラムの選択により進路を実現させていくのが総合学科の特徴である。塩尻志学館高校においても、各学年の教育活動を通して生徒の進路実現を支援する基本的なプロセスができていていると思われる。さらに、長期的な継続的な指導によって、実現できる進路分野があり、適性を認められた生徒をそうした分野に向かわせることも考慮して頂きたい。該当する生徒は一人二人または数人の程度と思われるが重要なことであろう。 |
| 2 学年 | 1 進路意識の高揚、集団形成と支援体制を整える | ①②③ | ア. 学年全体、進路希望別、それぞれの集団での学習活動ができたか。 イ. 進路指導部とキャリア教育推進部の連携によるCPの充実がはかれたか。 ウ. 個別に、学力・生活状況に応じた相談・助言ができたか。 | A | 学年全体では基礎学力診断テストを実施すると共に、進路別による学習にも取り組んだ。夏休みの体験学習発表会を行い、具体的な進路を確認できた。 | 学年全体での進路指導を主としながら、今後も進路別による個別の学力支援に対応していくことに努めていきたい。 | ・高卒時に4年制大学は難しかったが短大英文科進学→英語力を生かして4年制大学(英文科以外も含めて)編入 ・高校で美術の基礎技能を習得→教育学部美術コース進学→教員 ・高卒時に一流大学は無理であったが大卒後トヨタレベルの大学院に入学 ・就職者もそれぞれの分野で能力を伸ばしたり活躍できるところへ ・「産業社会と人間」学習発表会は充実した発表会で今後も継続してほしい。ただ、発表者の発言が持ち時間の関係か早口で意味不明の部分があったので検討いただきたい。 ・総合研究発表会をみさせていただき生徒たちのプレゼンテーション能力の高さに驚かされました。自信を持って自己表現できる生徒を今後も育成支援していってほしいです。 |
| | 2 研修旅行の充実 | ②③④ | エ. 平和学習の充実が図れたか。 オ. 訪問する各地の地理・歴史・文化について、理解を深められたか。 カ. 互いに協力し自らの責任を果たし、有意義な研修旅行になるよう指導できたか。 | A | 平和講演会で破壊体験を聞いたり、見学先の地理・歴史・文化について調べ学習を行うなどの事前学習ができた。研修旅行中は計画通りに研修を行い、平和の尊さを学び、中国・関西地方に関する理解を深めることができた。生徒アンケートの結果では、各項目の満足度がいずれも80%以上で、有意義な研修旅行を行うことができた。 | 事前の平和学習にもっと時間をとれば、広島平和記念公園での研修がさらに有意義なものになったと考えられる。今後とも機会をとらえて戦争の悲惨さや平和の尊さを考えさせたい。 | (例) ・高卒時に4年制大学は難しかったが短大英文科進学→英語力を生かして4年制大学(英文科以外も含めて)編入 ・高校で美術の基礎技能を習得→教育学部美術コース進学→教員 ・高卒時に一流大学は無理であったが大卒後トヨタレベルの大学院に入学 ・就職者もそれぞれの分野で能力を伸ばしたり活躍できるところへ ・「産業社会と人間」学習発表会は充実した発表会で今後も継続してほしい。ただ、発表者の発言が持ち時間の関係か早口で意味不明の部分があったので検討いただきたい。 ・総合研究発表会をみさせていただき生徒たちのプレゼンテーション能力の高さに驚かされました。自信を持って自己表現できる生徒を今後も育成支援していってほしいです。 |
| | 3 相互理解を深める | ③④ | キ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスができたか。 ク. 家庭との連絡が密に取れたか。 | B | 日頃から家庭との連絡は取ることができ、欠席する生徒の健康状況を把握できた。また、生徒会活動など中心的役割を担う学年になり、学級・学年の輪を広げられる様見守ることができた。 | 各担任で家庭との連絡を密にすると共に、学年全体で牽引していく。また、個々の生徒の活動や状況を見守っていく。 | |
| 3 学年 | 1 進路実現への指導、支援体制の充実 | ①②③④ | ア. 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図る。 イ. 個性や適性などに応じた進路指導をする。 ウ. 受験準備など計画的に活動できるように支援する。 | B | 模試や補習等、年間計画通り進めることができた。進路指導部との連携により、多くの生徒がセンター試験まで学習を続け挑戦したが、個別の受験計画への支援はもつとできたと思われる。 | 国公立も含め、推薦制度の利用を早い時期から検討させる。勉強部の方や科目選択の講座編成についても、見直す必要がある。また、最後まで5教科での受験を追求させるような先を見通した学習指導も大切である。 | |
| | 2 コミュニケーション能力の向上 | ③④ | エ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスする。 オ. 家庭との連絡を密に取る。 カ. 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成する。 | A | 生徒同士で思いやりを持った行動がとれるようになった。また、連絡無く生徒が欠席しているときや、生徒に関して何か気になる様子があるときは家庭と連絡を取り合い状況を確認することができた。 | カに関して、人前で発表をする際は、単に自分の書いた文章を読むだけでなくとどまらず、声量や視線に関しても毎回指導をし、プレゼン能力の向上を図る。 | |
| | 3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援 | ①②③④ | キ. 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援する。 ク. 規範意識を向上させ、社会性を身につけさせる。 | B | 最上級生の自覚を持って、生徒会活動の各種行事や総合研究発表会の運営を行なうことができた。 | 進路決定後、生活や服装の乱れが増加したので、生徒支援部と共にきめ細かい指導をする。 | |